

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101458		
法人名	医療法人 街道会		
事業所名	グループホームあした葉 1階		
所在地	島根県松江市雑賀町299番地		
自己評価作成日	令和4年7月8日	評価結果市町村受理日	令和4年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和4年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、利用者様とその家族様の声に耳を傾けながら、願いを大事にし共感しながら共に安心した生活、健康な生活を送って頂ける様に、医療機関との連携や職員間の情報共有を図りながら日々努力をしています。現在はコロナ禍の為、外出や行事、家族様との面会など制限をしております施設内で過ごす時間が多くなっています。その中で、体調・栄養・衛生面に配慮すると共に身体を動かしたりみんなで歌を歌ったり、また職員を中心に季節を感じて頂ける行事を計画したりと利用者様には穏やかで有意義な時間を過ごして頂ける様に職員一同努めています。また、家族様には毎月日々の様子をお手紙したり、いつでもオンライン面会や電話で話を頂く体制を作っており、家族様とも良好な人間関係作りをしています。今後も今まで以上に皆様と共に発展的な事業所を目指し努力したいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古い街並みが残る住宅地の一角にあり、幹線道路からやや入っているため、静かな環境。隣に法人の病院が隣接している為、以前から医療系のケアが必要な方や重度化にも対応しており、今までに多くの方を看取っている。入所期間の長い方が入れ替わり、現在の平均介護度は幾分軽くなってはいるが、現在も看取りに対応している。勤務年数の長い職員が多く、人生の最期のときがひとりきりでないよう、家族として見守るという思いで意識統一されているように見受けられる。ここ数年はコロナ禍の為か従業員確保が難しく、ギリギリの状況の中で業務改善に取り組みながら事業を進められている。コロナ禍の苦悩やストレスを抱えながらも管理者や経験豊富な職員を中心にまとまりを感じる。これからも、このグループホームの特徴を生かして、ご本人、ご家族関係者の思いに寄り添うケアを実践していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・居間に掲示し、常に意識できる様にしている。また、朝礼時に毎日唱和して、日々のケアに取り組んでいる。	新規職員の採用時に、施設の現状について詳しく説明しているが、実際の業務につくと続かないケースもある。「同じ業務を1か月間」「夜勤を行うまでに半年間」など育成に時間をかけている。仕事を一緒にしながら理念の考え方を伝えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、緊急時の協力態勢も確立している。施設の行事にご近所の方を招待したりしている。今年度はコロナウイルス感染症の予防対策のため外部との交流は中止している。	以前は近くの公民館の絵手紙教室に参加していたが、重度化とコロナ禍の為、地域との交流は絶たれている。実習や見学施設として関係者の出入りは多くあり、専門学校からは実習受け入れの打診もあるが見合わせている。	行き来は難しいが施設状況を発信するなど、地域との交流が途絶えないよう取り組んでいただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小林医院外来での介護の相談があった場合など、適切なアドバイスが出来るようにしている。また、運営推進会議で認知症の研修をしている。(今年度はコロナウイルス感染症の予防対策の為、運営推進会議は中止している)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の予防対策の為今年度の会議は開催していない。但し2カ月に1回家族様には状況や取り組みの情報をお伝えしサービスへの理解・協力を頂いている。	コロナウイルス感染症の感染者が減らない為、参集での会議は行っていない。入所者の現状や訓練、行事、研修、職員の異動などを、以前から関わりのある町内会長、防災でお世話になる近所の方々に送り意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者及び地域包括支援センターとは、情報提供や相談の受付など必要な場面で都度連携に努めている。また、あした葉でのケアの取り組みを良く理解してもらい、協力関係が出来ていると感じている。	運営推進会議の結果は毎月、市に送付している。窓口に出向くこともあるが、コロナ禍となり、メールでのやり取りが主になっている。地域包括支援センターからは空き状況の問い合わせ等があり、以前からの繋がりもあり、いい関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、玄関も日中は施錠していない。職員研修を通して、認知症による周辺症状をケアで緩和できるように検討・実践を重ねている。特に帰宅願望が強い時は、外に出るなどして、本人の思いを止めないように柔軟に対応している。	事故対策を含め身体拘束の委員会を定期に開催。施設内研修を年3、4回行い、ブロック会の研修にも参加している。実情に合わせてベッドの柵の付け方、声かけの仕方、帰宅願望への対処などについて職員間で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修と絡めて、虐待は絶対にしてはいけない事を常に意識しながら援助している。身体的虐待はもちろんであるが、言葉かけや態度など、虐待となり得る可能性のある事を学び、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は現在いないが、権利擁護に対する研修の機会をつくり、専門職としての知識の習得に努め、適切な説明ができるように働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みの時点で、施設見学をしてもらい、利用者様の様子をご覧頂きながら、説明を重ね、十分に納得してもらうことに重点を置いている。また、制度改定時の説明や書面での同意なども、都度いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在コロナ禍の為家族様の来所は少ないが、電話等があった時には利用者様の様子を伝えたり家族様から要望がないか尋ねたりしている。月に1回、居室担当より毎月ご様子を手紙や写真でお知らせしている。	月1回グループホームからの便りと一緒に担当者からご本人の様子を知らせる文章を写真入りで送り、意見をもらえる機会としている。コロナ禍で会うことができず様子の変化に驚くご家族があるので、手紙や電話等、それぞれのご家族に合わせた対応をとるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年度、昇給に合わせ、面接の機会を作るなど、できるだけ個々の意見を聞くように努力している。なかなか全員ミーティングの機会が持てないが、話しやすい環境の場を作る努力をしている。	管理者は定期的な面接を行うほか、気になるとときには声掛けて話を聞き、何でも言えるような環境をつくるようにしている。ストレスを抱えている職員に、必要と判断した場合は精神科を紹介するなど、少しでも働きやすくなるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が昇給・賞与の自己評価の後、考課結果について、代表者に承認をいただく際に、モチベーションを上げることが第一に大切であることを共通認識として、環境整備にも努力してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナウィルス感染症の予防対策の為、外部研修へ職員の派遣は行っていない。各職員の資格取得について、協力を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修は、できるだけ多くの職員が参加できるように研修計画を立て出席させたがい今年度はコロナ禍の為実施出来ず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接での聞き取りを十分にを行い、本人様や家族様の情報を、職員間で共有できるように準備期間をおく。また入所日に少しでも安心して頂けるように、面接に同行した職員を配置するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・申し込み・契約や説明を重ねる時点で得られた情報を最大限に活用し、利用者及び家族が望む生活を家族様と一緒に見守る関係づくりを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の思いを汲み取り、必要に応じ他のサービスの情報提供や相談援助を行っている。緊急性がある場合は、ケアマネや他事業所と連携し、必要な情報の伝達やサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場にたったケアを常に実践できるよう、接遇研修や認知症研修を行っている。優しい言使いや声掛けを意識し、何でも話せる人間関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍の為、面会制限を行っているが毎月お便りや電話等で情報を伝えている。また直接本人様と電話やオンラインでお話し出来る機会を勧めるなど工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会は少なくなったが、古いお友達や町内会の人を訪ねて来られたりと、生活のあらゆる場面での関係が、家族様を巻き込んで継続できるようにしているが、今年度はコロナ禍のため出来ていない。	以前は友人や親せきの方の面会もあったがコロナ禍でほぼ無い状況だが、商売等で付き合いのあった方から電話があると喜ばれる場面がある。外出しにくい為、桜の時期には枝を切ってきて写真をとるなど思い出せるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係はとても良く、孤立せず全員がホールで一緒に過ごしておられる時間が多い。また、必ず職員が間に入り、利用者様同士のトラブルが起きないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、訪問できる環境ならば、面会に行くが、今現在の環境を崩さないことが第一の支援と考えている。退所後の相談や遊びに来て頂ける関係作りは常に持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日々のコミュニケーションの中で得た情報を記録に残し、心の奥にある思いや希望を職員間で共有・検討し、本人様が望む支援を常に心がけている。	家に帰りたい思いから夕方になると落ち着かれない方がいるが、その思いをできるだけ共感するようにしている。日記を書かせてほしいとのご家族からの要望には、職員と一緒に1日を思い出すようにして書くことを続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談開始期からの経過の記録や生活歴を活用すると共に、入居前には必ず面接を行い、本人が心地よいと思える生活環境やケア内容を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との日々のコミュニケーションや、健康状態の観察をする中で、些細な変化も見逃さないように、残存機能や出来る事を奪わない事を重視している。また、自分のペースで過ごして頂く事を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者を中心に、今、入所者様に必要な事は何かを担当職員と話し合い作成している。出来ない事への支援ではなく、出来る事への援助を重視している。家族様にも望む生活等を確認しプランに反映している。	コロナ禍で参集しての担当者会議はできないが、必要な物品を持参された時などに話を聞いて計画作成に繋げている。重度化しても出来ることを続ける支援を中心に、端的にわかりやすいように、独自の介護計画書を使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、介護計画に直結したものと、本人の様子や健康面がわかるものと区別しており、それぞれに、見直しや比較が出来るような工夫をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様との散歩や外出など、本人様や家族様の要望を可能な限り対応しているが、今年度はコロナ禍のため出来ず。その他、急なデイサービスの利用拡大や延長など希望に合わせ、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の高齢化や重度化により、外出出来る利用者様は減ったが、出来る限り地域の行事などに参加出来る機会を作るようにしている。今年度はコロナ禍の為外出は控えており、実施していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の家族様の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援をしながら、法人の医師により、月2回の往診や適切な指導を受けている。現在はコロナ禍の為、緊急時以外の受診は控えて頂く様に協力をお願いしている。	医療法人経営のグループホームの為、申し込みの際に話をして了承を得ての入所になっている。月2回の往診を含めて、休日、夜間、緊急時の対応も可能で家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接した医院の担当看護師が毎日健康観察している。その他毎朝のバイタルや特変時の状況等報告し、専門職の支持を得て処置などを行い、常に連携体制が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は環境の変化で認知症が進まないよう出来るだけ早期に退院が出来るよう病院の相談員と緊密に連絡を取っている。特に骨折による入院では、手術後の抜糸が終わればすぐに退院させてもらう等の対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在までに30名以上の看取りを経験した経緯から、終末期の在り方を、入居の段階で確認し、状況が変化していく中で、逐次家族様や関係者との関わり方を検討している。また、急変時の連絡方法や対処方法についても十分に話し合いを行っている。	隣が法人の病院の為今までに多くの看取りを行っており、現在も対応中。コロナ禍で家族の付き添いができないが、一人にならないようにとの職員の思いから必ず誰かが側で看取れるようにしている。多くの経験から落ち着いた対応ができ、管理者は職員の成長を感じており、今後も続ける意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員会を設け、その都度必ずカンファレンスを行い、出来る限りの事故防止策を考えている。また、感染予防に関する対応や急変時に備えた研修の実施を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スムーズに避難誘導や通報ができる様に、年に2回避難訓練を実施している。他事業所や地域の防災隊と災害時の協力体制も確立している。また、水害時のマニュアルも作成している。	市街地に立地し、近くに川や山もなく自然災害には合い難い場所であるので、主に火災時を想定した訓練を行っている。原発の避難地域になっており、他の災害を含めて会議でマニュアルを作成している。近くのグループホームと有事の際には協力し合うよう話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と関わる中で人格やプライバシーを尊重したケアを心がけている。職員は常に相手の立場に立って考える事を援助の基本姿勢としている。また、職員一人一人が情報管理の徹底に取り組んでいる。	管理者は声掛けに特に注意しているが、不適切と思える場面もある為その場で注意するようにしている。接遇研修では基本的なことを改めて振り返るよう話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな物を選ぶなど、自己表出の難しい人でも、自己決定が出来るような場面を多く持つように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除等の業務を優先するのではなく、利用者様の訴えや思いを最優先とするように対応を心がけている。大体の生活ペースを把握した上で、個々のニーズやペースに適宜対応できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には自分で着る服を選ぶ、毎朝、鏡の前で補整をもらう、化粧を継続する、髭を剃るなど、それぞれにできる支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、味見する、茶碗を拭くなどを一緒にやっている。職員も同じメニューで共に食事をしながら、楽しいひと時を過ごしている。頂き物も多いので、その場で食材の変更したりと臨機応変に対応している。	調理担当職員を雇用している。ペースト食には市販の物を利用するが、それ以外は食材の買い物から調理を施設で行っている。できることは限られるが、味見や野菜の皮むきなど、一緒にするようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の野菜中心に、良質なたんぱく質を欠かさないように職員が献立を立てている。食事形態など体調に応じた食事が出来るように配慮し、経口摂取が難しい人にも嗜好品を摂って頂ける様に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の嚥下体操と食後の口腔ケアを確実に行う。また、利用者様によっては義歯安定剤を使用する事で、しっかり噛んで食べて頂き口から食べることの大切さを認識し、食事を楽しむことを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り排泄習慣や排泄パターンを把握して、トイレで排泄をしていただける様に実施している。必要に応じて職員2名で介助し、トイレ誘導をしている利用者様もいる。	重度で常時オムツ使用の方や、夜間はオムツでも昼間はトイレ使用の方もいる。できるだけトイレで排泄できるよう、個々に合わせて必要な介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1500mlを目標に水分摂取を心掛け、朝は牛乳・10時のおやつにはヨーグルトを毎日摂取してもらっている。十分な水分摂取が、排泄や精神安定・抵抗力に繋がる事を活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や希望に合わせて入浴を実施している。入浴拒否がある方も、誘導方法や声掛けを工夫することで、問題なく入浴できている。また、特殊浴槽を使用することで、ほぼ、全員の方が湯船に入れている。	特殊浴槽があり、重度で寝たきりの方も全員浴槽に入ることができる。週2回のペースで入れるように声がけしている。浴槽に入るまで抵抗する方も入るとくつろがれている。重度化し特殊浴槽利用者が増えてきている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅にいる時と同様に昼寝の習慣のある方は、好きなスペースで午睡してもらう様にしている。夜間寝付けない場合も眠剤を使用することはせず、適切な対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録と共に処方箋をファイルし、効果や副作用・用法・用量をいつでも確認できるようにしている。適切な服用が出来るように飲み込みの悪い人は粉碎するなど医師・薬剤師との連携も十分にできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等の役割をもってもらう。歌を歌ったりラジオ体操をしたり、塗り絵や縫い物など、個々の能力や楽しみに繋がるような援助を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前での日向ぼっこやお茶会、散歩に出かけている。行事に合わせ地域の方との交流の機会を設けている。遠方の家族様が帰省された時は外出されることもあり必要な支援をしているが、今年度はコロナ禍の為出来ていない。	コロナウィルス感染症の感染拡大以前は外に出ることができたが、ここ数年は難しくなっている。頻繁ではないが、玄関前にイスをだし外気浴する機会を持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお店へ行き買い物や支払いが出来る利用者様は減っているが、小遣い預かりとして、必要な時自由に使えるように管理・支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をされる利用者様は現在殆どおられないが、いつでも自由に電話をかけて頂ける体制は出来ている。また、家族様からの電話の取り次ぎやオンラインでの電話で話ができる体制作りはできている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節に応じた作品を貼るなどして過ごしやすい空間づくりに努めている。また、適切温度や湿度管理を行うなどの配慮しながら、天気の良い日は、玄関前で過ごすようにしている。	住宅地内に施設がある為、外の景色から自然を感じる機会は少ないが、花を飾ったり季節に応じた飾り物をしている。交通量の多い道路から少し入っている為、車等の騒音も無く静か。感染症予防の為、換気は時間を決めて徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬季はこたつで横になり、窓際でソファーや椅子に座り談笑したり、いつでも本や新聞を読めるようにしたりと、いろいろな場所・場面での居心地の良い空間を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、寝具等を持ち込んでもらい、家族の写真などを飾り、自分の部屋を居心地良く過ごせるように、家族様と協力して取り組んでいる。	思い入れのある物の持ち込みを薦めているが、沢山物を持ってくる方は少ない。大きめのクローゼットがあり収納が可能で、テレビ、イス、衣装ケースなどが置かれている。日中の大半をデイルームで過ごす方が多いが、部屋でもくつろげるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレがわからない人にも分かるように明記したり、コップなども自分の物をとってもらったり、出来る事を奪わない支援の仕方をしている。		